



オープンアクセス について

島根大学附属図書館医学図書館

山崎月子

本日の内容

1. オープンアクセスとは

- ◆ 定義
- ◆ 背景
- ◆ 意義
- ◆ 手段

2. オープンアクセスの動向

- ◆ 世界の動向
- ◆ 日本では

3. 島根大学では

- ◆ 機関リポジトリSWAN
- ◆ 貴重資料デジタルアーカイブ
- ◆ GOGURa

オープンアクセスの定義

- ◆ (査読された) 雑誌論文をインターネット上で自由に利用することができ、全ての利用者に、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、全文へのリンク、索引化のためのクローリング、ソフトウェアへの取り込み、その他合法的な目的での利用を(中略)財政的、法的、技術的な障壁無しに許可すること。

【2002年：ブタペスト・オープンアクセス・イニシアティブ】
(BOAI: Budapest Open Access Initiative)

- 2003年ベセスダ声明・ベルリン宣言とあわせてBBB宣言

⇒ 学術論文をインターネットを通じて誰もが無料で閲覧できるようにすること

- **オープンアクセス = OA**

OA化の背景

1. 学術雑誌の高騰

学術論文や学術雑誌は市場での価格競争にさらされることがないこと・大手商業出版社の寡占で 毎年平均8.4%の値上がり



シリアルズ・クライシス

2. 納税者への説明責任

公的資金を使って行われた研究は、その成果を広く無償で公開すべき

OA化の広がり

- ◆ 1991年 物理分野のプレプリントサーバー（現在のarXiv）
- ◆ 1998年 北米図書館協会がSPARCを設立
- ◆ 2000年 BioMed Centralより最初のOA論文が刊行
- ◆ 2003年 PLOS(Public Library of Science)よりPLOS Biology刊行
- ◆ 2002年 ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ採択
- ◆ 2003年 ベセスダ声明・ベルリン宣言採択
- ◆ 2004年 SpringerによるOAジャーナルの出版 ～ 大手出版社に広がる

OA化の意義

1.世界中へ発信

研究成果の公開

研究成果の還元

2.研究成果の共有

知的資産の共有

研究者同士のコミュニケーション

3.研究成果の活用促進

引用・再利用を促進

学際的な研究、イノベーションの創出

OA化の手段1

◆ ゴールドロード (ゴールドOA)

出版社が発行している学術雑誌をインターネットを通じて誰もが無料で読めるようにすること

- フルオープン：すべての論文がOA化されている
ジャーナルのこと
(2017年11月現在約10,500タイトル
DOAJ :<http://www.doaj.org/>
による)
- ハイブリッド：購読誌の中で、一部OA化された論文が混じっているもの
- 論文処理費用 (ACP:Article Processing Charge)
は著者が負担

ゴールドOA投稿時の注意

- ◆ 品質は保持されているか
 - 査読:方針とプロセスの明示
 - タイトル、ISSN、連絡先、雑誌のポリシー、編集委員会のメンバーが同定できること、年5本以上の論文を出版すること など
 - 出版後の著作権
クリエイティブ・コモンズ・ライセンス
<https://creativecommons.jp/>を使用
 - APC料金
- ◆ インパクトファクター
- ◆ OAジャーナルの検索 : Directory of Open Access Journals(DOAJ) <http://www.doaj.org/>

OA化の手段2

◆ グリーンロード（グリーンOA）

研究成果をセルフアーカイブによって、機関リポジトリや研究者のWebサイト等で無料公開すること

➤ 機関リポジトリ

➤ 分野別リポジトリ

arXiv : 物理、数学、コンピュータ分野

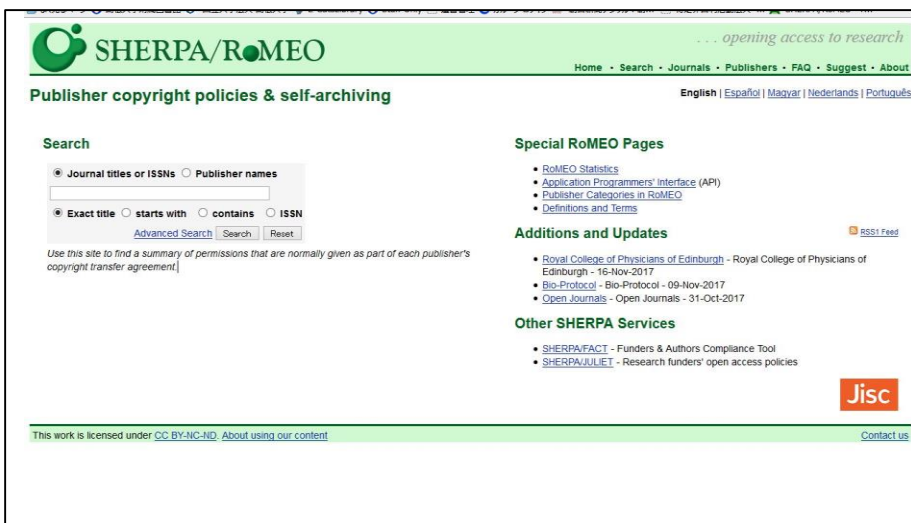
SSRN (Social Science Research etwork) 社会科学系

➤ センtralリポジトリ : 政府等が運用するリポジトリ
NIH (米国国立衛生研究所) : PMC

OAポリシーの検索

◆ 海外 : SHERPA/RoMEO

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/index.php?la=en&fIDnum=|&mode=simple>



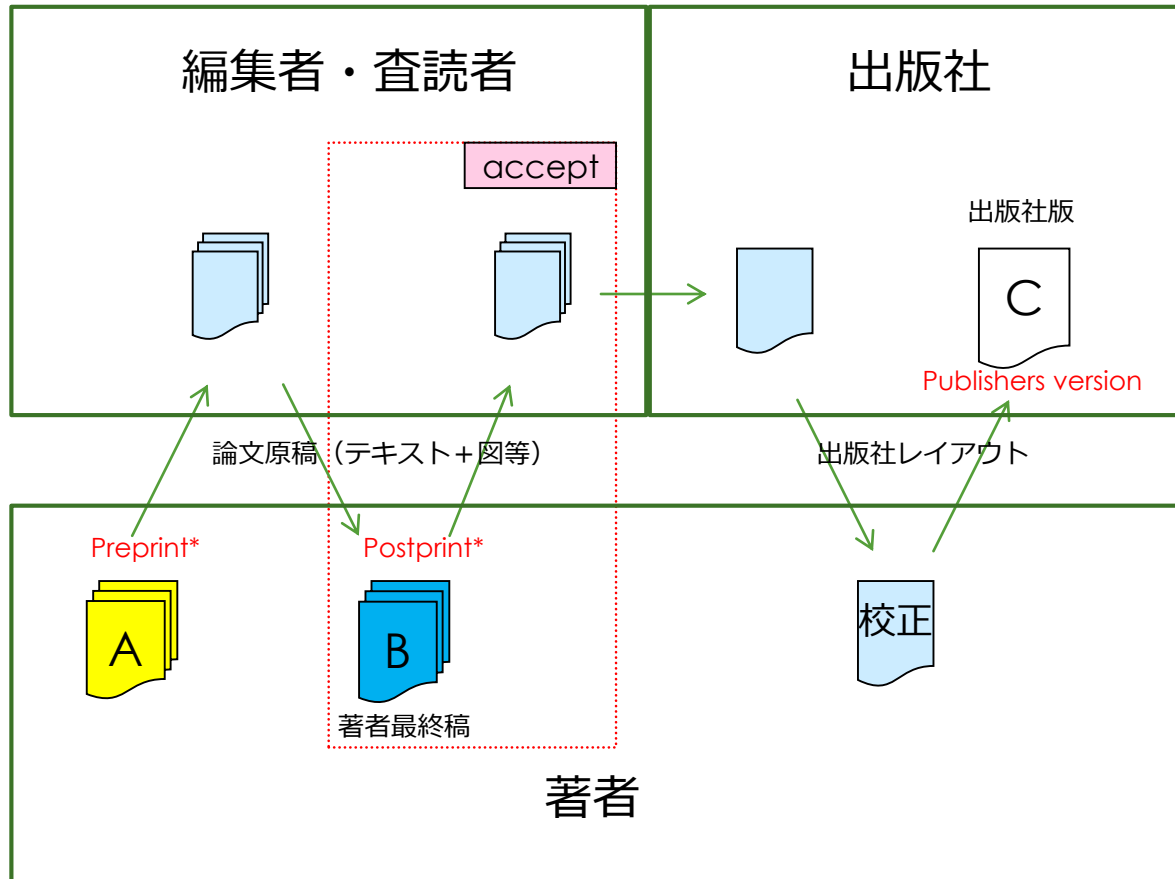
◆ 国内学協会 : SCPJ

(Society Copyright Polices in Japan)

<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>



論文投稿とリポジトリ登録の関係図



RoMEO**のcolor

Yellow

Preprint(A)の公開が可能

Blue

Postprint(B)の公開が可能
出版社版(C)が使える場合あり

Green

Preprint(A)とPostprint(B)のど
ちらでも公開が可能
出版社版(C)が使える場合あり

White

Preprint(A), postprint(B), 出版
社版(C)何れの公開も行えない

*Preprint及びPostprintの定義は、RoMEOの定義を使用しています

**RoMEO:SHERPA/RoMEOはIRでの出版社許諾情報をDB化しているサイト
<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>

世界の動向：OA義務化

◆ イギリス

- RUCK（英国研究会議）OA方針（2012年）
- JISC（英国情報システム合同委員会）：Springer Compact

◆ オランダ

- 2024年までに国内の論文を100%OA化
- VSNU（オランダ大学協会）：各出版社とOA移行に向けた交渉

◆ ドイツ

- マックスプランクデジタルライブラリー：OA2020（2016年）
- ドイツ科学機構連合、HRK（ドイツ大学長会議）：Project DEAL

◆ アメリカ

- カリフォルニア大学：“Pay it Forward Project”

◆ EU

- Horizon2020

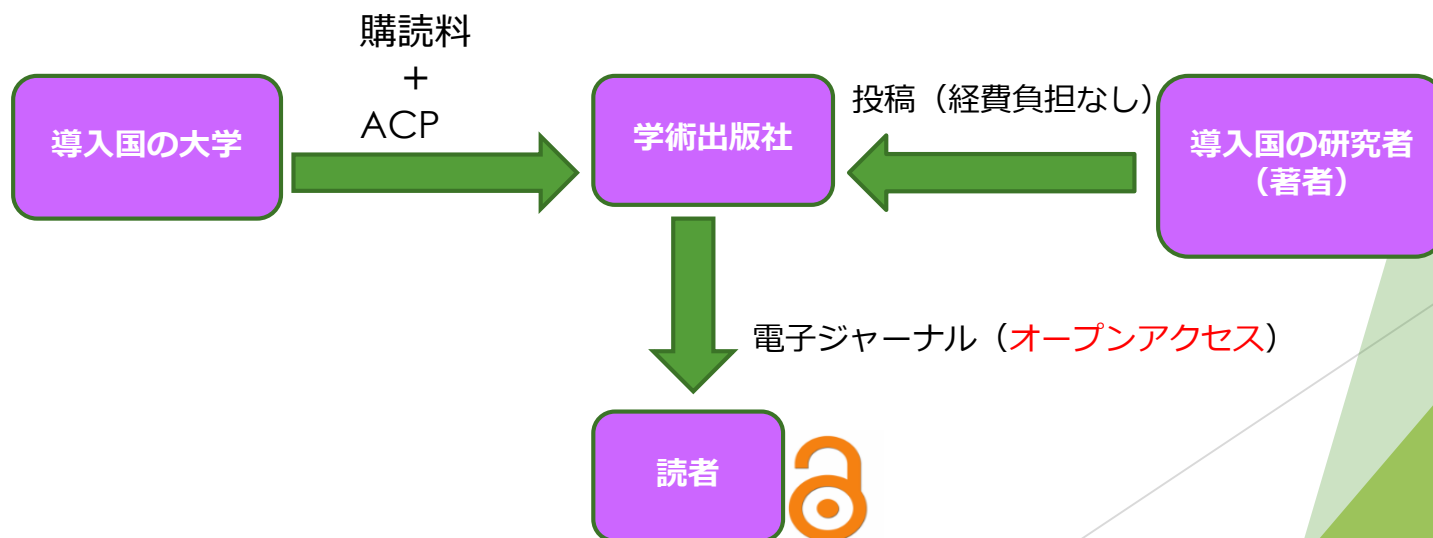
OAの動向：購読型からOAへ

◆ オフセット契約

購読費とAPCを大学がまとめて支払う

Springerのハイブリッドジャーナル1700誌と
SpringerLink2000誌 ほか

導入国：オランダ・イギリス・ドイツ・オーストラリア・スウェーデンなど



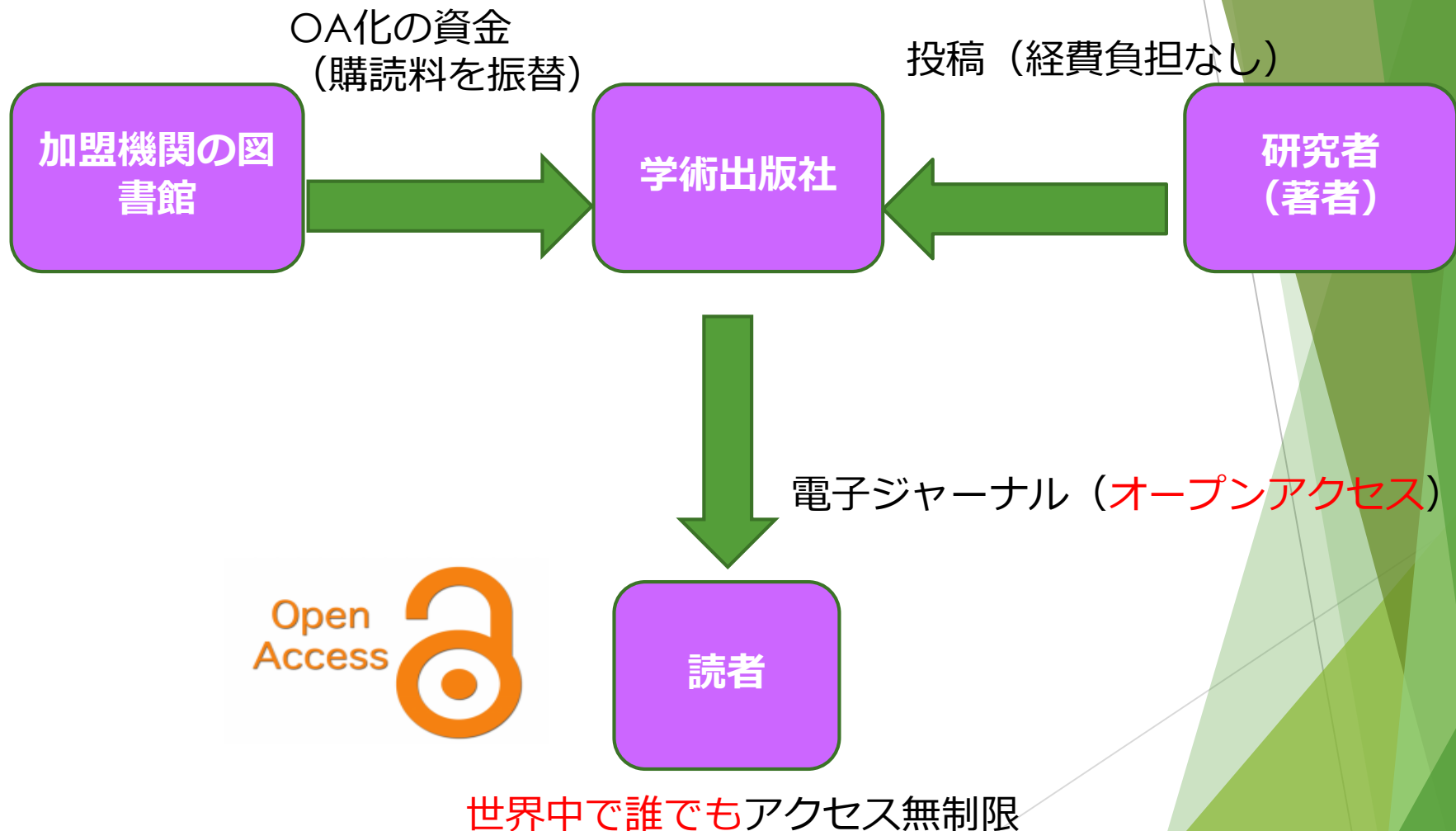
導入国の研究者が執筆した論文は誰でもアクセス無制限

世界の動向：購読型から完全OAへ

◆ フリップिंगモデル

- SCOAP3(Sponsoring consortium for open access publishing in particle physics)(2014年～)
高エネルギー物理分野のOAプロジェクト
- OA2020 (2016年)：関心表明86機関署名
ドイツ・マックスプランク協会が立ち上げる
SCOAP3を汎用化し分野を限らず購読型から
ゴールドOAに変換する試み

フリッピングモデルのしくみ



日本におけるOA化への対応

- ◆ 2012年 学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について（科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部学術情報基盤作業部会）答申の公表
- ◆ 2013年 学位規則改正 博士論文のインターネットによる公表
- ◆ 2013年 科学技術振興機構（JST）の助成を受けた研究成果のOA化の推進
- ◆ 2013年 科研費（義務化ではない）投稿料・掲載料を科研費の直接経費から支出可能
- ◆ 2016年 日本学術審議会 OAを推進する方針を公表
- ◆ 大学等でOA方針の採択が進む（2017.4.5.現在15件）

振興活動組織

1. 国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）
国立情報学研究所が中心国内の研究者、機関、大学が連携
2. 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）
電子ジャーナルの価格交渉、学術情報を安定的、継続的に確保するための活動
3. デジタルリポジトリ連合（DRF）
グリーンOA関連
4. 機関リポジトリ推進委員会
5. OAリポジトリ推進協会（JPCOAR）

島根大学では

1. 機関リポジトリ：SWAN

学術論文、紀要論文、博士論文

<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/ja>

2. 貴重資料リポジトリ：貴重資料デジタルアーカイブ

3. 地域資料リポジトリ：GOGURa

島根大学「地（知）の拠点整備事業」

（COC事業）の一環として構築

地域資料の「集積と保存」公開と活用」

<http://coc.lib.shimane-u.ac.jp/ja>

しまね地域資料リポジトリ



おまけ

▶ DOIについて

- Digital Object Identifierのことで学術情報の流通において重要な識別子となっている。

Biosci Biotechnol Biochem. 2017 Jun;81(6):1120-1124. doi: [10.1080/09168451.2017.1292838](https://doi.org/10.1080/09168451.2017.1292838). Epub 2017 Feb 20.

- インターネットでのURLの変更があっても恒久的なアクセスを保証するために考案された。システムやサーバーが変更されてもDOIは保持されアクセスが可能となる。
- リポジトリの管理者がDOIを登録できる。国際DOI財団により運営されていて、日本では、ジャパンリンクセンター（JaLC）が登録機関に認定されている。